

◀ クリックすると次の頁にジャンプします。

相原茂
著

あ、知ってる中国語

常用文ファイル
50

〈後記全文〉

東方書店

後記

「基本単語」あるいは「基本語」という考え方がある。重要な単語、よく使う単語をきちんとマスターしようということだろう。

それならば「基本文」という考え方があってもよい。重要な文、よく使う文をきちんとマスターしようというのである。

日本語でもそうだが、「ありがとう」とか「すみません」「こんにちは」というような、よく使う言葉ほど、奥行きが深く、用途もひろい。そこにはその民族の考え方すら反映されている。

そういう誰もが知っている、身近な基本常用文について、たちどまつて考え、改めてしげしげと眺めてみた。

本書は雑誌『中国語』（内山書店）に「中国語常用文ファイル」というタイトルで一九九五年九月から二〇〇〇年五月まで連載したものの中から五十編を選びだして編んだものである。連載を勧められ、また転載を承諾していた「中国語友の会」に感謝したい。

毎月の執筆は苦しくもあり、楽しくもあつた。月末近くになると、電話をかけやすい身近な中国人をよく煩わせた。それは主に、郭雲輝、田禾、陳淑梅のみなさんである。改めてお詫びとお礼を申し上げたい。一書にまとめるにあたっては、これも友人の彭広隆（北京大学）氏に過目していただいた。彭氏をはじめ、これらの方々からの多くの貴重

▶ トップページにもどる

な意見を吸収して本書ができていたことは言うまでもない。表紙の猫はもりわじんさんの作品である。好きなオブリエで表紙をかざるにあたっては東方書店にわがままを言い、装順の堀博さんには無理なお願いをした。

北京在住の十数年来の友人、中央美術学院教授で版画家の広軍氏、北京服飾学院教授で画家の郎森氏の両名は、ほかならぬ相原の頼みということで、忙しい芸術活動の合間をみて、挿し絵を描いてくれた。それも短期日のうちに五十枚も仕上げてもらった。

本書の企画から完成まで、前著『中国語の学び方』に続き、今回も東方書店編集部の三澤もり絵さんが当たられ、内容にふさわしい器をつくっていただいた。

いつも多くの人々の力に支えられて何程かの仕事ができあがる。ありがたいことだと思わずにはいられない。

二〇〇〇年秋

相原茂